

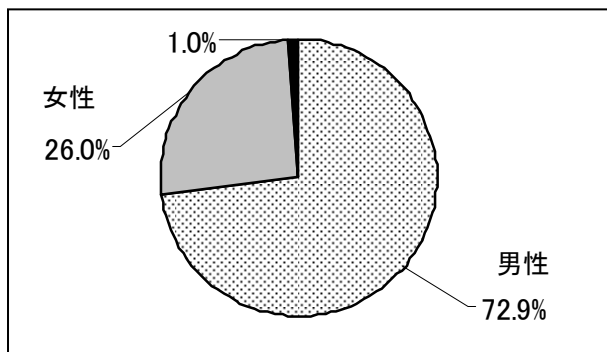
食品に関するリスクコミュニケーション(東京・大阪) —食品からのカドミウム摂取に関するリスク評価について— アンケート集計結果

開催日: 2008年6月13日(金)・6月18日(水)

アンケート回答率: 65.8%

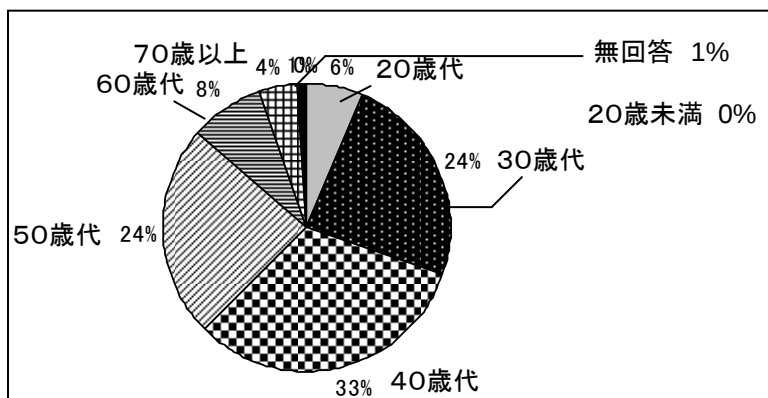
問1 あなた自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きます。
以下の設問について、それぞれあてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

①性別

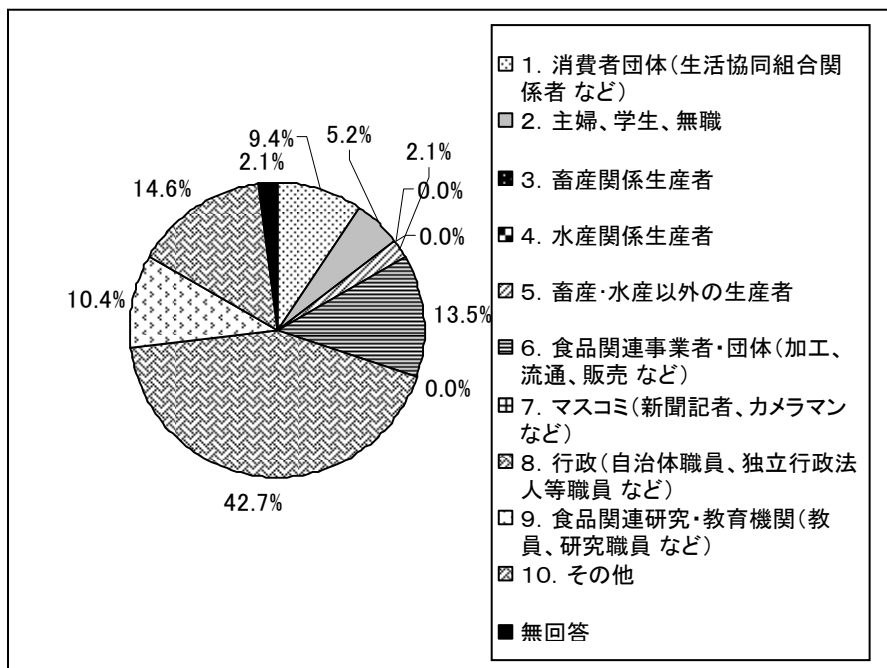


小数点以下第二位の四捨五入により、割合の合計が100にならない場合があります。

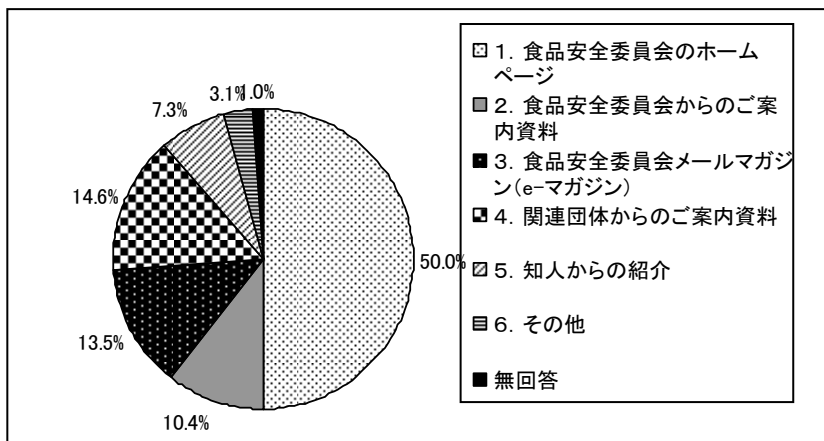
②年齢



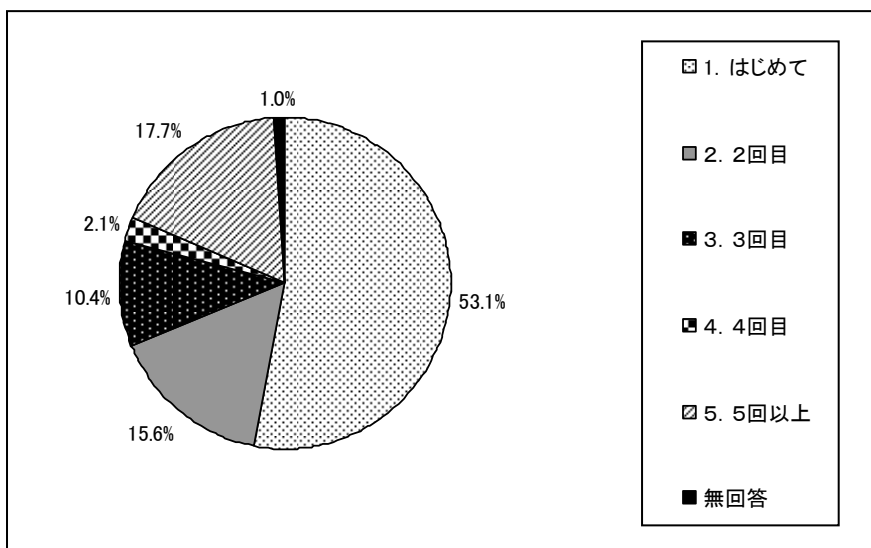
③職業



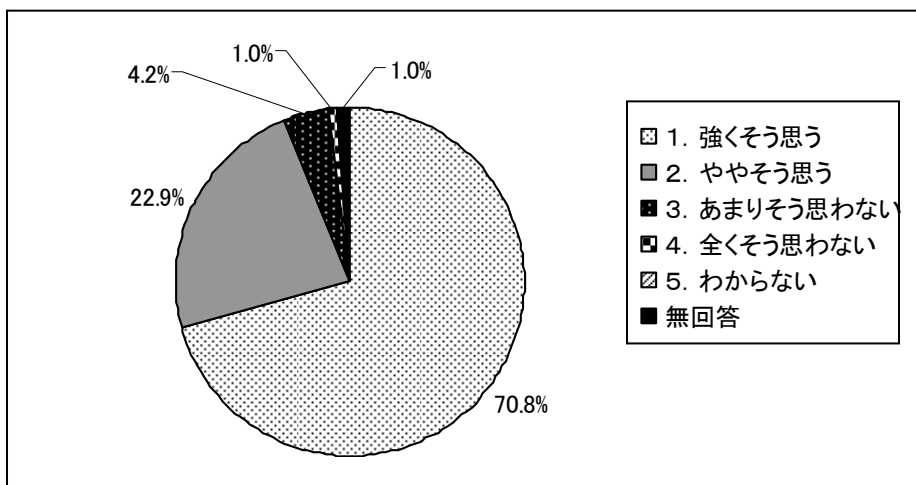
④本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか。



⑤食品安全委員会が実施する意見交換会には、本日で何回目の参加となりますか。

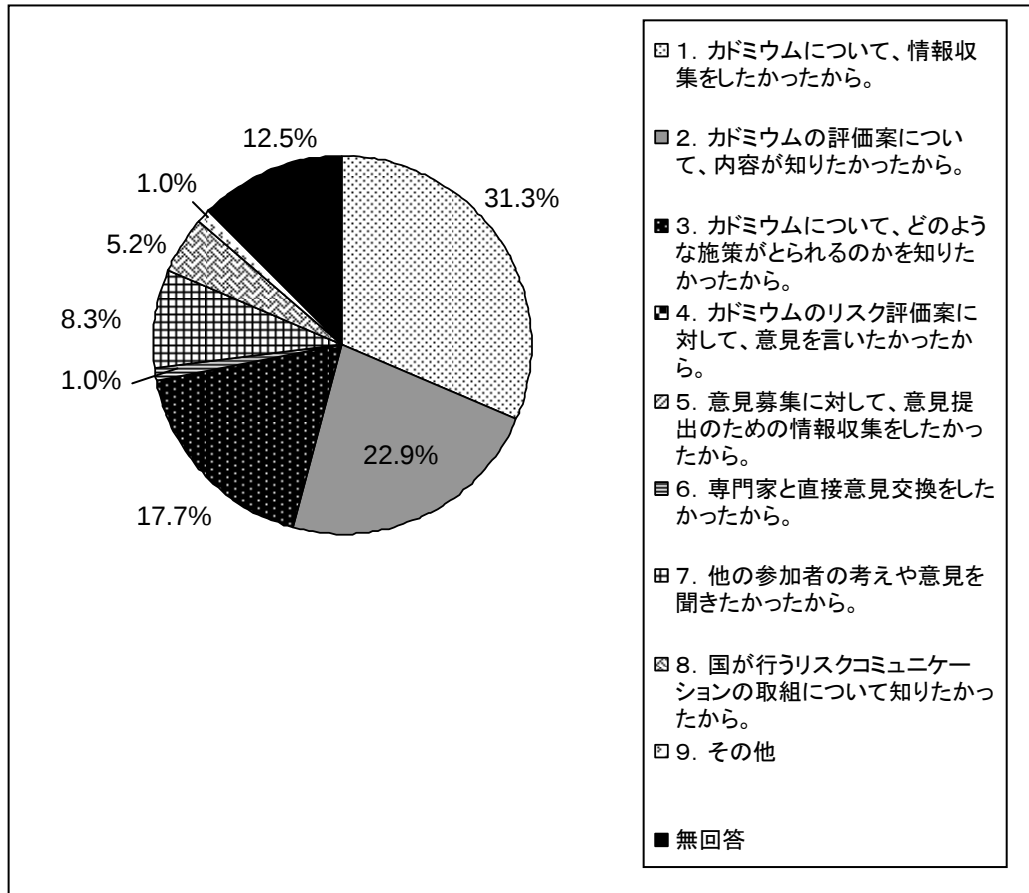


⑥国民の食生活を取り巻く変化や、食の安全に関する国際的な考え方において、どんな食品にもリスクがあるという前提で食品行政においてリスク分析手法が導入されています。あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか。

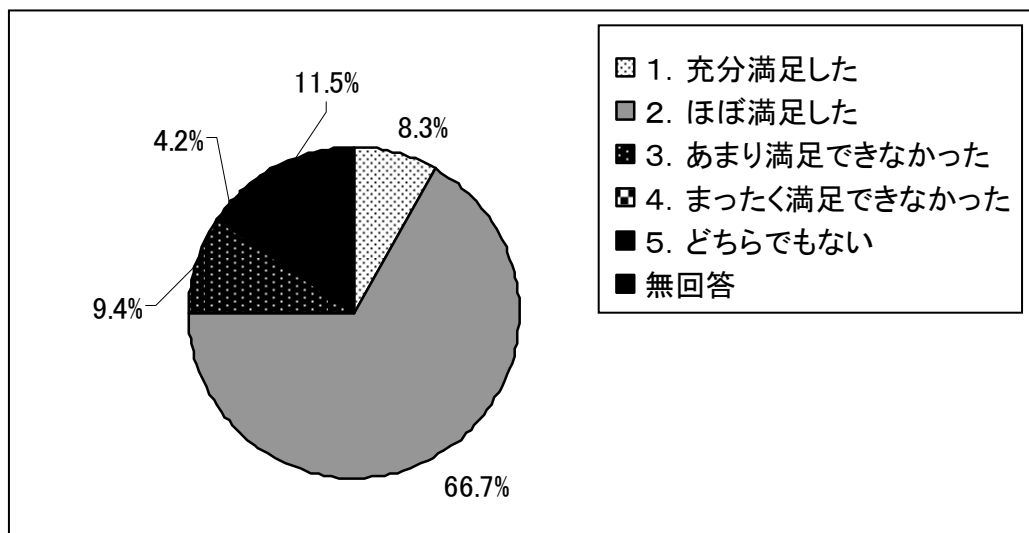


問2 本日の意見交換会についてお聞きます。それぞれあてはまるものところを○で囲んでください。

①本日の意見交換会に参加された目的



②問2－①でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会はどの程度満足できるものでしたか。



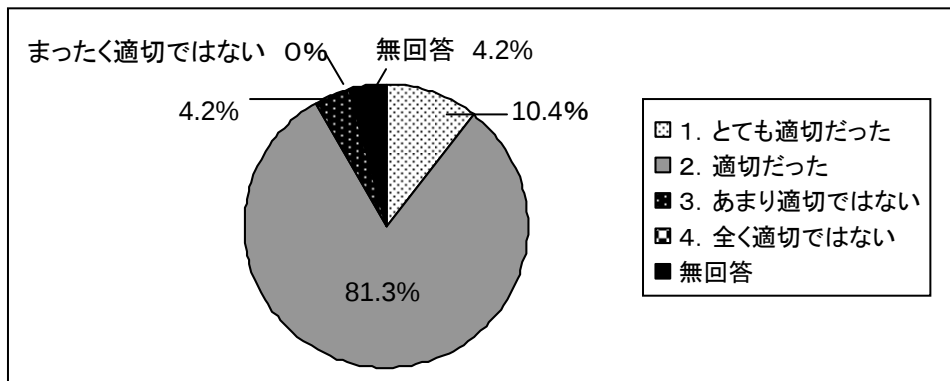
②のサブクエッション

「あまり満足できなかった」「まったく満足できなかった」「どちらでもない」と答えた方に伺います。
本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。(自由記述)

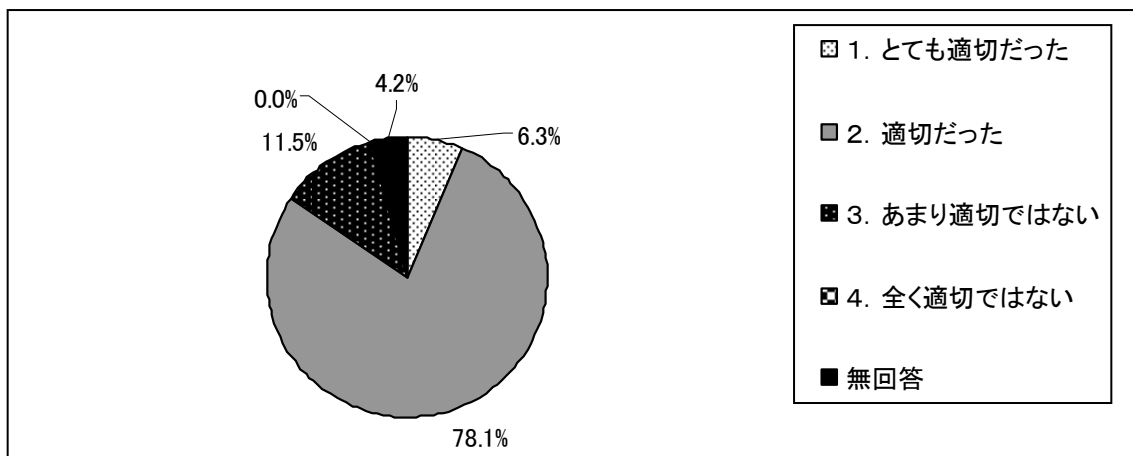
食品安全委員会がこたえるべきものではないが、カドミウムの基準値の設定(対象食品等)についてはもっとくわしい説明がほしかった。
耐容週間摂取量 $7\mu\text{g}$ の決定が、どのような(政策的)意味を持ち、今後どのような動きがあるのか不明。
説明している方の声がききとりにくかった
意見交換会、というイメージではなかった。
厚生労働省の回答(立場上、時期などについてコメントしづらいのも理解しますが、もう少し具体性があるコメントが欲しかったです)
私自身がなにも知識を持っていない状態での参加でしたので、内容がむづかしく理解しにくかった。
意外と消費者の方がいなくて…
音響設備が悪いのか、聞きにくいところがあった
生産者、消費者の考えが聞きたかった
カドミウムの暴露状況などをもっと詳しく話して欲しかった
サイエンスの苦手、食わずぎらいな一般消費者に食品によるCdの汚染について、心配する必要はないということを分かり易く説明する“方法、施策、一般レベルの話し言葉での説明”について示されなかった。

③本日の意見交換会の進め方について伺います。会の全体を通じて感じた印象についてお聞かせください。

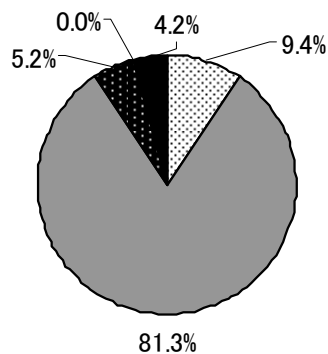
a.意見交換会開催時期



b.開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

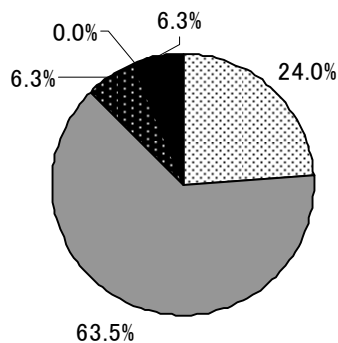


c.配布資料



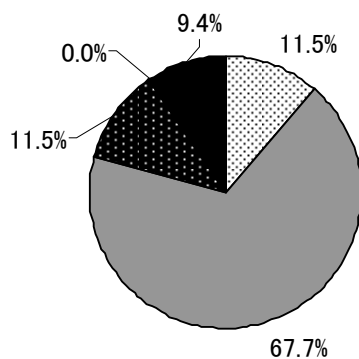
- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- 4. 全くわからなかった
- 無回答

d.専門家による講演



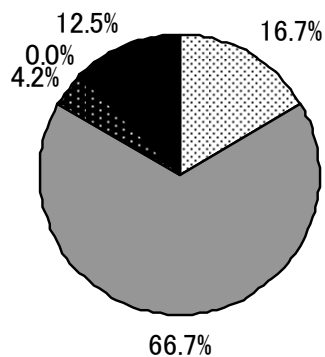
- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- 4. 全くわからなかった
- 無回答

e.意見交換時の応答



- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. わかりにくかった
- 4. 全くわからなかった
- 無回答

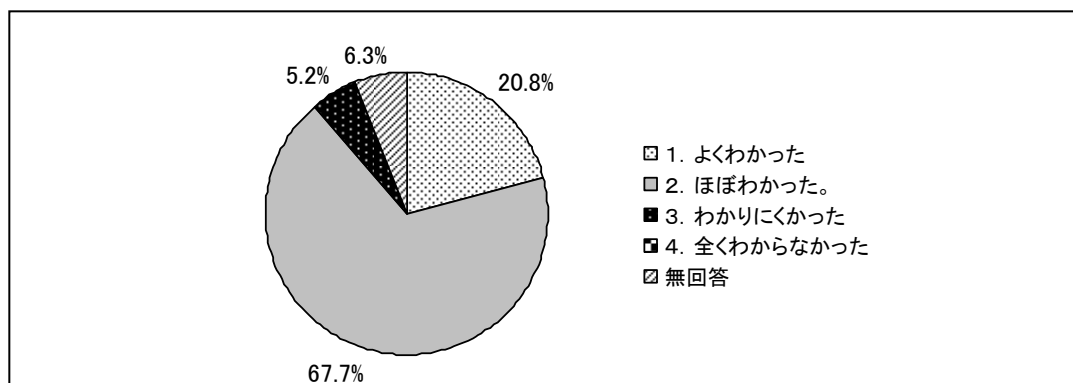
f.意見交換会全体



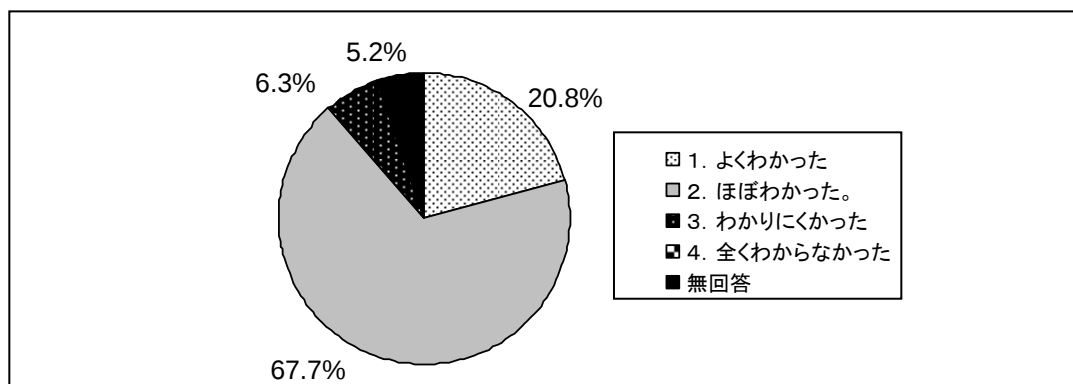
- 1. 評価する
- 2. おおむね評価する
- 3. あまり評価しない
- 4. 全く評価しない
- 無回答

問3 本日の意見交換会の内容について、それぞれあてはまるところを○で囲んでください。

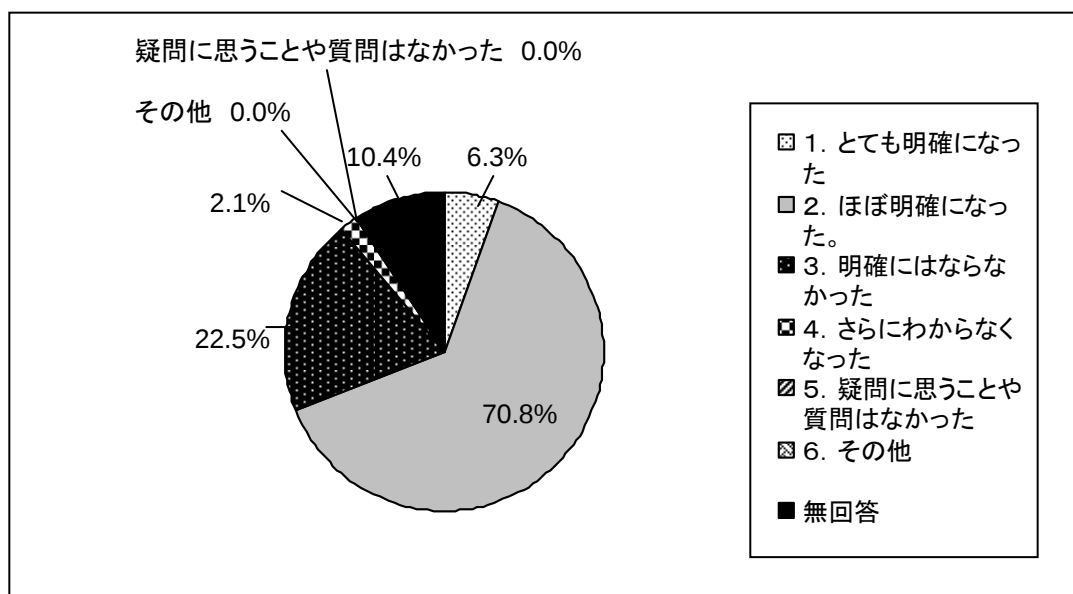
①食品からのカドミウムの摂取について、理解できましたか。



②食品安全委員会で検討している食品からのカドミウム摂取に関するリスク評価の内容について、理解できましたか。



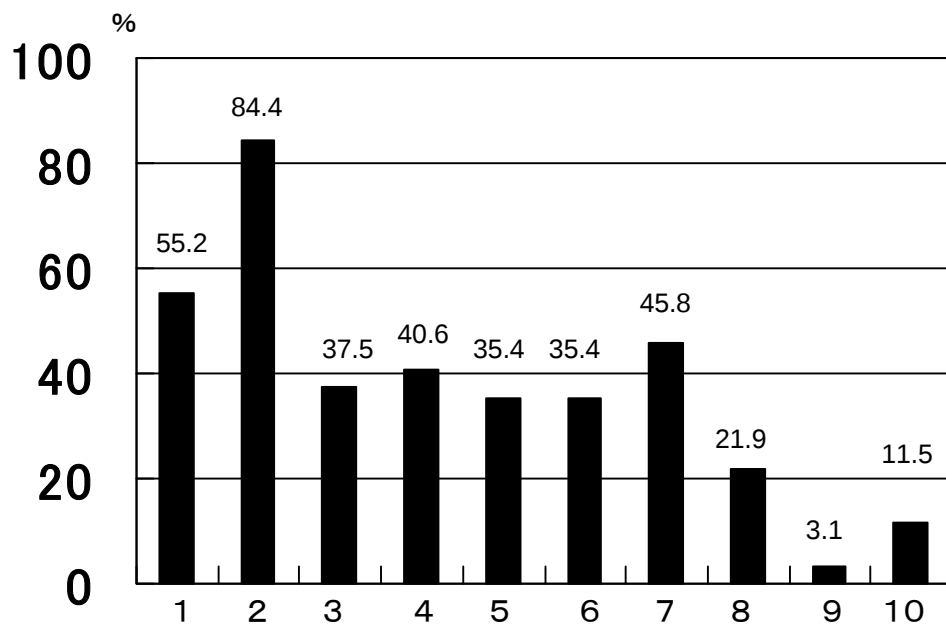
問4 今回の意見交換会に参加される前に疑問に思っておられたことや質問したいことは、この意見交換会で明確になりましたか。



今回の意見交換会では、説明が足りなかった、もっと聞きたかった、もっと議論すべきだったことなどがありましたら、お書きください。(自由記述)

今後のリスク管理について、もっと聞きたかった
食品添加物とCdの相互作用について、Cdが増加するというデータがないと言っておられたが、簡単に話がすまされてしまい、どのくらいの調査データの中からあるのか、すべての食品添加物の中で何割くらい検査されているかなど、もう少し具体的に説明してほしいかったです。
実際に食品に含まれるカドミウム量について、食品個別に教えて欲しかった。又、これをふまえた基準値設定の具体的な方法等くわしいところを聞きたかった。
7. 0 μ gと1. 4 μ gの2者択一で低い方を採用した印象が強く、論文2件のみで審議は、不十分と思われる。7. 0～14. 4の中間値が適正な摂取量ではないか？
厚生省のスケジュールを聞いておきたかったが、何もないのと同じで、少しがっかりした。リスクコミュニケーションになっていないのでは…。
吸収率が年齢によって異なるならば、赤ちゃん向け商品(食品)も7 μ gとして考えてよいのか？
厚生労働省の回答がもう少し具体的に言ってほしかった。
評価書案だけではなく、その他の議論も欲しかった
何も知らない人が理解を出きるような内容のリスコミがあれば参加したいと思う
リスク管理に関する質問があったが、もう少しくわしい回答をききたかった。
Cdがとり上げられた経緯についてもう少しふれられればよかったのではないかと存じますが…(一般の方の為に)質疑の中で一般の方々にも大よそ理解されたのではないかと存じます。集まって居られる方々がCdについて広くおわかりでない方が多いことから質疑での小泉委員長代理からの長年の御研究から御説明があり説得力あり会場の方々がより理解されより安堵されたかと考えます。
質問に対する回答が回答になっていない時が多かった。特に小泉様。たとえば、小児にも7 μ gを適応するつもりなのか、それでよいのかどうか明確に答えられておらず、残念だった。
ビデオどり、写真さつえいについて説明がなかったように思われます。利用方法の説明としようかいをとるべき
カドミウムを含む重金属のみならず、様々な化学物質(農薬、添加物など)との複合暴露について質問してみたかった。
先生方の説明の中で、横文字でわからない言葉がつかわれていたので、その辺は仕方ないかもしれないが、わかりやすい言葉で説明してもらいたい
「食品からの摂取では問題になるレベルにはならない」というのに何故このcdを評価するのか？経緯、背景が分からない
「法律があるから」を理由にして説明するのではなく、モニタリングデータから施策に効果があるという説明をしてほしい。(行政としての説明)
カドミウムリスクについて何が問題でどう対処しなければならないのか、先が見えない
専門用語が多くなるので、門外かんと自覚している者にとって、用語集を作成して頂いたことは、大変助かりました。又各々のお話の内容がよく理解出来、配慮を嬉しく思いました。
質問用紙に答えていただいてずいぶん理解が進みました。化学的な用語わかりやすく説明されてよかったのですが質問の内容がむづかしくなると、回答もむづかしくなってしまうて残念でした

問6 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、○をつけてください。



- | | | |
|-----------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと | 4. 食品安全委員会メールマガジン | 7. 食品の安全性に関する用語集 |
| 2. 食品安全委員会ホームページ | 5. 食品安全モニター制度 | 8. 食品の安全性に関する政府広報 |
| 3. 食の安全ダイアル | 6. 季刊誌「食品安全」 | 9. その他 |
| | | 10. 無回答 |

この意見交換会の時期についての意見です。毎年この時期に何らかのリスコミがあります。食品安全モニターをしているので、同じ週に2回外出するのは難しいことがあります。できれば、モニター会議と同じ週の開催はやめて欲しいと思います。今回はTWIの設定がテーマなので現状の基準値玄米1.0ppmが適切かどうかは触れられていませんでした。厚労省・農水省の判断を待つことになるので、期間がかかると今回のことを忘れてしまいそうです。
せっかくのコミュニケーションの場ですので、参加人数が60名程度と少ないように思う。もっとコミュニケーションがあることを知らせる場を増やしてはどうかと思った。
一つの数字がどのようにして決定されるのかが、よくわかりました。大へんな努力の結果、たくさんの人々の仕事がかかわっていることを知りました。
スタッフの方が多すぎる割に何かともたついているような気がしました。
内容はよかったがマイクの使い方によっては、聞き取りにくかった。
世界的な食糧の高騰が問題視される中で、過剰に規制を行なう方向に行くことだけはやめていただきたい。一農家より
意見交換の前に質問を受ける方法は日本ではかなり効果的なよう感じがしました。また、直接食品安全委員会の答える内容でなくとも他省庁の担当の方が答えるシステムもリスコミとしては成功していると思われる。
食品安全委員会では、それぞれ専門の方々に関与されておられ、学問的根拠に基づいた取組みをなされていることが、従来以上に示されたこと大変評価されるべきであろうと考えます。小泉委員長代理が総括的にご発言があり、皆によくわからしめられたと思います。最後に内分泌攪乱について。
科学的で良かった。会場からは“安全方向で評価した方が”といった意見もあったが、あくまでも、科学的評価がない場合に限るべきで評価を無視するような何でも“安全方向”というのは、良くないと感じた。
大量消費大量販売により企業にとってサイレントマジョリティが1970年頃テーマとなり、企業は市場調査・商品開発等々のマーケティング活動を展開し生き残り策を講じた。サイレントマジョリティ(もう云わない大衆)から物言う大衆の誕生への対応も消費者室などの組織により時代の流れに対応した。これに対し行政がもの言わぬ大衆からもの云う大衆へどう組織的に対応しているかが大きな課題。食の安全についても同様で今進んでいる消費者庁の如く細分化から総合化へ、体系的に取り組む事が重要。その為に行政、企業、生活者の連携をモニター制度等では不足と考える。
今日は専門家の先生のお話しパワーポイントもわかりやすかった。回答の時間が充分にとれる質問の内容でうまくバランスがとれていた